

地方独立行政法人りんくう総合医療センター
平成 28 事業年度に係る業務の実績に関する評価結果

平成 29 年 8 月

地方独立行政法人りんくう総合医療センター評価委員会

目 次

	ページ数
1 年度評価の方法	1
2 全体評価	2
(1) 評価結果と判断理由	2
(2) 全体評価にあたって考慮した事項	3
3 大項目評価	
3-1 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項	4
(1) 評価結果と判断理由	4
(2) 大項目評価にあたって考慮した事項	4・5
(3) 評価にあたっての意見、指摘等	6
3-2 業務運営の改善及び効率化に関する事項	
(1) 評価結果と判断理由	6
(2) 大項目評価にあたって考慮した事項	7
(3) 評価にあたっての意見、指摘等	7
3-3 財務内容の改善に関する事項	
(1) 評価結果と判断理由	7
(2) 大項目評価にあたって考慮した事項	8
(3) 評価にあたっての意見、指摘等	9
3-4 その他業務運営に関する重要事項	
(1) 評価結果と判断理由	9
(2) 大項目評価にあたって考慮した事項	10
(3) 評価にあたっての意見、指摘等	10

1 年度評価の方法

地方独立行政法人りんくう総合医療センター評価委員会（以下「評価委員会」という。）においては、地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）第 28 条第 1 項の規定に基づき、地方独立行政法人りんくう総合医療センター（以下「法人」という。）の平成 28 事業年度の業務の実績に関する評価を次のとおり行った。

(1) 評価の基本方針

中期目標及び中期計画の達成状況等を踏まえ、法人の業務運営等について多面的な観点から総合的に評価を行い、法人の継続的な質的向上に資するものとし、業務運営の改善や効率化等の特色ある取組や様々な工夫を積極的に評価するものとする。また、評価を通じて、中期目標及び中期計画の達成に向けた取組状況等を市民にわかりやすく示すものとする。

(2) 評価の方法

評価は、「項目別評価」（小項目評価及び大項目評価）と「全体評価」により行う。

「項目別評価」では、法人の小項目ごとの自己評価をもとに、実施状況等の事実確認、法人のヒアリング等を通じて、年度計画に照らし合わせて進捗状況を確認するとともに、法人の自己評価の妥当性の検証、評価を行う。

「全体評価」では、「項目別評価」の結果等を踏まえつつ、また、法人化を契機とした病院改革の取組みなども考慮しながら、中期計画等の進捗状況について総合的な評価を行う。

なお、上記(1)評価の基本方針及び(2)評価の方法については、平成 23 年 8 月 31 日評価委員会において決定した「地方独立行政法人りんくう総合医療センターに対する評価の基本方針」及び「地方独立行政法人りんくう総合医療センターの年度評価実施要領」に基づくものである。

2 全体評価

(1) 評価結果と判断理由

地方独立行政法人となり第2期中期計画の初年度次である平成28事業年度において、資金計画に関する部分を除いては、**年度計画及び中期計画の達成に向けて概ね計画どおり進捗している。**

大項目評価において、業務運営の改善及び効率化に関する事項及びその他業務運営に関する事項については、小項目においてすべての項目の評価がⅢ以上であったため、A評価（計画どおり進んでいる）とし、住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項については、小項目において目標を達成できなかった項目が、1つあったが、評価Ⅲ～Ⅴの割合が9割以上であったため、B評価（概ね計画どおり進んでいる）と判断した。財務内容の改善に関する事項については、小項目において目標を達成できなかった項目が1つであり、概ね計画どおり進んでいるが、資金計画に関する部分については、既に財政再建プランなどの取組みを実施しているものの、セールアンドリースバックという手法で病院の事業用地を活用しなければ、資金不足を解消できなかったという重大な事実もあったことから、D評価（重大な改善事項がある）と判断することが妥当であると考えます。

その他の各計画項目に対する取組状況としては、全体的には計画に沿ったものであった。

特に、診療面においては、地域の医療機関との連携のもと、救急医療、小児・周産期医療、感染症医療、災害その他緊急時の医療への対応、がん・脳卒中・急性心筋梗塞をはじめとする高度専門医療などを引き続き提供できている。また、統合した救命救急センターでは、三次救急患者の受け入れ後の病床の確保など、救命とりんくう双方の運営面での多くの課題を克服しながら、泉州地域の三次救急医療機関としての役割を發揮しつつ、二次救急医療への応援を充実させたことで、低迷していた稼働率を向上することができたことは評価できる。

しかしながら資金収支においては、独法化して5年経過し地域の中核病院としてその役割を果たしているが、診療報酬の改定の影響、消費税増税、法定福利に関する給与制度改正等の要因に加え、診療報酬を上げるために診療体制を強化した割にはその効果が發揮されておらず、収益が伸び悩んでおり、資金不足の状況となっている。

このような状況のなか、今後ますます国の医療制度改革や病院を取り巻く環境は厳しくなるなかで、病院としての採算性の向上をめざし人材確保をはじめ安定的に医療を提供するために策定した財政再建プランを着実に実行し、単年度の新たな資金不足が生じないように、効率的な病院運営を行うことが不可欠である。

(2) 全体評価にあたって考慮した事項

- ① 災害医療では、災害医療に関する研修及び医療救護を想定した災害訓練に参加するなど、災害拠点病院として緊急事態に対応できるよう体制を整備するとともに、災害発生時に携帯電話を利用して、全職員へ一斉に連絡できる災害招集システムを導入したことは評価できる。
- ② 救急医療については、10月から原則的に救命救急医師が、救急外来の救急責任当直を担当し、プライマリー医師とともに患者受入れ時より協働で診療する体制を構築し、二次救急を強化したことにより、多くの重症患者を受け入れることができたことは評価できる。
- ③ 国際診療の充実の面においては、平成28年度の補正予算「外国人受入れ環境施設整備事業」に採択され、国際診療科と健康管理センターの移設及び院内LANなどのインフラの整備をした。また、医療通訳を養成するための本センターでの実地研修では、実践的で質の高い医療通訳者の確保、育成に努めた結果、養成終了者数を増加させることができたことは評価できる。

3 大項目評価

3-1 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果から、**B評価（概ね計画どおり進んでいる）**とする。
- 小項目 35 項目のうち 34 項目において、評価がⅢ以上となっている。
- 高度医療の提供はもとより、災害医療においては、災害拠点病院として緊急事態に対応できる体制を整備するとともに、救急医療においては、二次救急を強化し新たな救急医療体制を充実させるなど、より多くの救急患者等を受入れることができている。また、増えている外国人患者へのさらなるサービス向上をめざしてきたことは高く評価できる。その一方で、外来患者の満足度が目標値を下回ったことなどを踏まえて、大項目評価としてB評価が妥当であると判断する。

S …… 中期目標・年度計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

（評価委員会が特に認める場合）

A …… 中期目標・年度計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。

（すべての項目がⅢ～Ⅴ）

B …… 中期目標・年度計画の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる。

（Ⅲ～Ⅴの割合が9割以上）

C …… 中期目標・年度計画の達成のためにはやや遅れている。

（Ⅲ～Ⅴの割合が9割未満）

D …… 中期目標・年度計画の達成のためには重大な改善事項がある。

（評価委員会が特に認める場合）

(2) 大項目評価にあたって考慮した事項

- ① 【1 (1) 災害医療・救急医療①】について、前述にもあったように、災害拠点病院として緊急事態に対応できるよう体制を整備しただけでなく、危険性が増している化学災害や爆発テロを想定したC B R N E（シーバーン）災害研修を災害協力病院や消防署、保健所等の参加のもと開催した。また、DMA Tを地震の被災地である熊本や伊勢志摩サミットに派遣したことなどを評価し、小項目評価ではⅣ評価としたものである。
- ② 【1 (1) 災害医療・救急医療②】について、「2 全体評価」の「(2) 全体評価にあたって考慮した事項」でも述べたとおり、新たな救急医療体制を構築したことにより、救急外来患者数などの指標を大きく上回ったことを評価し、小項目評価ではⅤ評価としたものである。

- ③ 【1 (3) 高度医療・先進医療の提供④】については、糖尿病は、外来患者の逆紹介を積極的に促進することにより、紹介患者を確実に受け入れた。その結果、教育入院を中心に入院患者が増加し、12月には糖尿病学会認定施設となり、当院のみの研修で糖尿病専門医の取得が可能となった。また、入院患者数の目標値を大きく上回ったことを評価し、小項目評価ではIV評価としたものである。
- ④ 【2 (1) 医療職等の人材確保③】については、「働きやすい職場づくり」の取り組み内容として、前年度に引き続き、就労に関する諸制度について各職種で有効に活用されていることや、看護師の離職率がさらに減少したことを評価し、小項目評価ではIV評価としたものである。
- ⑤ 【3 (2) 患者中心の医療⑤】については、入退院サポートセンターでは、患者が入院中に安心して治療を受けられるように、入院決定時にクリニカルパスを用いた説明や問診を実施し、緊急入院患者にはベッドサイドまで出向く運用を継続し、利用者数を増加させた。また、退院前には、施設や在宅での医療介護を円滑に受入れできるように、院内の多職種の医療技術者や地域の施設の職員とカンファレンスを行い、患者の支援を行ったことを評価し、小項目評価ではIV評価としたものである。
- ⑥ 【3 (4) 職員の待遇向上①】については、患者から投函された意見を検証し、当該部署と共に改善策などをまとめ、院内に掲示すると同時に、イントラネットに掲載し職員の啓発にも努めた。取り組みとしては、苦情の多かった案内表示は分かりやすい表示方法に変更し、入院食に関しては、評価の低いメニューを入れ替えておいしい食事を提供したが、外来患者の満足度が目標値を下回ったことから、小項目評価ではII評価としたものである。
- ⑦ 【3 (5) ボランティアとの協働によるサービスの向上④】については、医療通訳ボランティアに関して、英語、中国語の通訳依頼が年々増加しており、ボランティア体制を強化し、1月より英語と中国語の対応日を週あたり1日ずつ増やした。また、通訳実績件数も前年度に引き続き高い水準であったことを評価し、小項目評価ではIV評価としたものである。
- ⑧ 【4 (1) 地域の医療機関との連携①】については、顔の見える連携として、連携病院の訪問や地域医療懇話会の開催、「地域医療だより」を発行し、さらに病病・病診間の診療情報を相互共有できるネットワークシステム（なすびんネット）の運用の拡大、泉佐野泉南医師会の地域連携室に当院の地域医療連携室職員の派遣など継続的に行った。その結果、紹介率と逆紹介率は目標値を上回ることができたことを評価し、小項目評価ではIV評価としたものである。

<小項目評価の集計結果>

項目	評価項目数	I 大幅に 下回る	II 計画を 下回る	III 計画を順 調に実施	IV 計画を 上回る	V 大幅に 上回る
1 質の高い医療の提供	9			6	2	1
2 医療水準の向上	7			6	1	
3 患者・住民サービスの向上	15		1	12	2	
4 地域医療機関等との連携強化	4			3	1	
合計	35	0	1	27	6	1

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- ① 眼科の休診に伴い未熟児網膜症例の対応のため、応援医師等の確保に努めて欲しい。
- ② 現状の医療体制を維持するためにも、看護師はしっかりと確保して欲しい。
- ③ 退院カンファレンスについては、今後は、特に在宅医療へもつなげるよう努めて欲しい。
- ④ 病院の機能や役割などを含め、現在、病院が行っていることをもっと広報すべきである。

3-2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果から、**A評価（計画どおり進んでいる）**とする。
- 11項目すべてにおいて、小項目評価が**III**以上となっている。
- 今年度は、研修施設を有効に活用する一方で、事務部門の職務能力の向上を図るため、医療コンサルタントを導入し、DPC等のデータを活用した分析手法や改善手法の研修を実施し、効率的・効果的な業務運営をめざしたことなどを踏まえ、大項目評価として**A評価**が妥当であると判断する。

S……中期目標・年度計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

（評価委員会が特に認める場合）

A……中期目標・年度計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。

（すべての項目がIII～V）

B……中期目標・年度計画の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる。

（III～Vの割合が9割以上）

C……中期目標・年度計画の達成のためにはやや遅れている。

（III～Vの割合が9割未満）

D……中期目標・年度計画の達成のためには重大な改善事項がある。

（評価委員会が特に認める場合）

(2) 大項目評価にあたって考慮した事項

- ① 【2 (3) 職員の職務能力の向上①】については、泉州南部卒後シミュレーションセンターにおいて、21 のトレーニングプログラムが利用でき、2 つのプログラムは、シミュレーション機器を開放し自由に利用できるようにした。その結果、センター全体でのシミュレーション機器の利用実績は前年度より増加した。さらに、チーム医療の推進の取組として、多職種カンファレンスを年間 23 回開催したことを評価し、小項目評価ではⅣ評価としたものである。

<小項目評価の集計結果>

項目	評価項目数	I 大幅に 下回る	II 計画を 下回る	III 計画を順 調に実施	IV 計画を 上回る	V 大幅に 上回る
1 運営管理体制の強化	2			2		
2 効率的・効果的な業務運営	9			8	1	
合計	11	0	0	10	1	0

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- ① 病院運営に関する情報や決定方針等については、形式に拘らず、全職員に伝わるように努力して欲しい。

3-3 財務内容の改善に関する事項

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目 12 項目のうち 11 項目において、評価がⅢ以上となっている小項目評価の集計結果から、通常はB評価（概ね計画どおり進んでいる）とするところではあるが、資金計画に関する部分において、重大な改善事項があると判断し、D評価とする。
- 収入の確保においては、年度の前半の稼働率の低迷に関する救急患者受入れによる対応、リハビリテーション体制の充実、寄附金獲得への取組みなどで収入の確保に努め、費用の節減においては後発医薬品の使用促進や高額医療機器の契約延長など行っていることは評価できるが、法定福利に関する給与制度改正等の要因に加え、診療報酬を上げるために診療体制を增強した割にはその効果が発揮されていないなどの要因が重なり、予想を上回る資金不足が生じたため、セールアンドリースバックを活用しないと資金調達ができなかったことなど、今後の計画達成のためには重大な改善事項があると判断し、大項目評価としてはD評価とする。

S …… 中期目標・年度計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
(評価委員会が特に認める場合)

A …… 中期目標・年度計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。
(すべての項目がⅢ～Ⅴ)

B …… 中期目標・年度計画の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる。
(Ⅲ～Ⅴの割合が9割以上)

C …… 中期目標・年度計画の達成のためにはやや遅れている。
(Ⅲ～Ⅴの割合が9割未満)

**D …… 中期目標・年度計画の達成のためには重大な改善事項がある。
(評価委員会が特に認める場合)**

(2) 大項目評価にあたって考慮した事項

- ① 【1 資金収支の改善】について、今年度の経常収支は、年度の前半で患者数の減少に伴い稼働率が低迷したが、救命診療科医師の応援により救急受入れを強化したこと、フリーアドレスの原則を徹底し柔軟な病床管理を実施したことは評価できるが、セールアンドリースバックという手法で病院の事業用地を活用しなければ、資金不足を解消できなかったという重大な事実もあったことから、小項目評価ではⅡ評価としたものである。
- ② 【2 (1) 収入の確保②】について、リハビリテーションは、休日の緊急患者や手術後の患者等に対応するため体制を強化し、切れ目のない急性期リハビリテーションを提供した。また、外来部門では、近隣で実施していない心疾患リハビリテーションを提供し、循環器疾患の患者の在宅復帰、社会復帰を支援し、収益の面でも増収になったことを評価し、小項目評価ではⅣ評価としたものである。
- ③ 【2 (1) 収入の確保⑥】について、泉佐野市のふるさと納税の使途に「メディカルプロジェクト(医療環境整備)」の項目が新設され、新たに病院誌「ナイススマイル」や病院発信の印刷物等に寄附のお願いの案内を掲載するなど、積極的に周知した結果、件数も寄附額も増加したことを評価し、小項目評価ではⅣ評価としたものである。
- ④ 【2 (2) 費用の節減②】について、厚生労働省は薬事審議会において後発医薬品導入を推進しており、使用率は年度計画の目標値を達成することができた。また、DPC機能評価計数Ⅱの上限値を超えることができたことを評価し、小項目評価ではⅣ評価としたものである。

<小項目評価の集計結果>

項目	評価項目数	I 大幅に 下回る	II 計画を 下回る	III 計画を順 調に実施	IV 計画を 上回る	V 大幅に 上回る
1 資金収支の改善	1		1			
2 収入の確保と費用の節減	11			8	3	
合計	12	0	1	8	3	

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- ① 後発医薬品の採用拡大は、引き続き努めて欲しい。

3-4 その他業務運営に関する重要事項

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果から、**A評価（計画どおり進んでいる）**とする。
- 2項目において、小項目評価がいずれもIVとなっている。後の「(2) 大項目評価にあたって考慮した事項」でも述べているが、この地域において感染症対策及び国際診療の充実を図るうえで、着実に役割を果たしていることを踏まえ、大項目評価としてA評価が妥当であると判断する。

S……中期目標・年度計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

（評価委員会が特に認める場合）

A……中期目標・年度計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。

（すべての項目がⅢ～Ⅴ）

B……中期目標・年度計画の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる。

（Ⅲ～Ⅴの割合が9割以上）

C……中期目標・年度計画の達成のためにはやや遅れている。

（Ⅲ～Ⅴの割合が9割未満）

D……中期目標・年度計画の達成のためには重大な改善事項がある。

（評価委員会が特に認める場合）

(2) 大項目評価にあたって考慮した事項

- ① 【1 感染症対策】について、関係機関と合同でMERS搬送訓練、エボラ出血熱疑似患者搬送訓練を行った。8月には麻しん患者の入院があり、保健所の指導のもと、二次感染を防止するため、健康監視を行うとともに、拡散の防止に努めた。また、関西国際空港での発症者の半数にあたる17名を当院で診察し、9月末に収束することができたことなど評価し、小項目評価ではIV評価としたものである。
- ② 【2 国際医療交流拠点づくり地域活性化総合特区の活用及び協力】について、国際診療の充実の面においては、「(2) 全体評価にあたって考慮した事項」の「②」で記載した内容を評価し、小項目評価ではIV評価としたものである。

<小項目評価の集計結果>

項目	評価 項目数	I 大幅に 下回る	II 計画を 下回る	III 計画を順 調に実施	IV 計画を 上回る	V 大幅に 上回る
1 感染症対策	1				1	
2 国際医療交流拠点 づくり地域活性化 総合特区の活用及 び協力	1				1	
合計	2	0	0	0	2	0

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- ①院内LANなどのインフラの整備をしたということで、それを活用し、今後の更なる国際診療の充実に努めて欲しい。